

3・11の地震、未曾有の大津波は天然の良港と言われてきた、さしもの気仙沼湾一円を物も無残に破壊し尽くして過ぎ行つた。こんな悲惨な出来事が二度とあっていい訳がない。われわれはこれから予測される自然の脅威に対して人の智の及ぶ限りの備えをする必要がある。

私は、かねてより、気仙沼の内湾を津波から守るためには、水路の狭くなっている商港と対岸を結ぶ線に可動式の防波堤を設置したら良いのではないかと思ひ続けていた。今度の津波を体験して、さらにその思いが強くなった。そして

う1カ所、大川の河口にもこの防波堤がある。この可動式防波堤がどれほどの効果があるのか。いわゆるL1対策である。津波が堤防を越えても、止められた分だけ水量は少なくなり被害も小さくなる。

可動式防波堤は現代的可動式防波堤は現在、大林組と日立

奥湾なので津波の勢いは衰え、高潮状態にまで弱まって来ており、堤防の高さは5メートルと同等で良い。これで魚町・南町地区は安全にカバーされ、復興計画は容易に描く事ができる。

式海岸に万里の長城の如き古典的な防波堤を巡らすのではなく、現代の科学工学を十分に用いた近代的な装置を今こそ考えるべきである。完全な装置とするには、もう少し時間が必要となれば、しばらくの猶予を持つことは必要であろう。

可動式防波堤はあの大津波以来、途方にくれて立ちすくんでいる気仙沼市と沿岸一帯の水産業、そして市民たちの将来に明るい希望の灯をともしものとして確信をもって推奨するものである。

### 気仙沼湾が天然の良港でありつつけるために

## 可動式防波堤の設置を

菅原 啓

造船グループが実験を行つているものであり、その実現が期待される。

入り組んだ気仙沼港にこそ必要であり、今われわれが求める最善の対応策と考える。

堤はさらに沖側の商港先端と小々汐港の外側を結ぶ線と大川河口にも設置する事により気仙沼湾の守りに大きな効果がある。これにより南気仙沼地区と鹿折地区、そして内湾地区を安全にカバーすることができ

第3に可動式防波堤とその作動実況を防災教育と観光資源に供する。可動式防波堤は作動の確実性とメンテナンスを必要とする事から、一定のタイミングでの作動の確認が必要である。年に何度か作

県議会での村井知事の「否定的発言」は、県がやや勉強不足だったと思われる。宮城県の最北端の気仙沼と仙台との届かぬ政治的距離を感じている。

## 投稿

所への備えは必要で

提案します。ここは

この細長いリアス

ある。

丁目